社会福祉学専攻

1．総合人間学研究科社会福祉学専攻 博士前期課程（2026年度）授業科目表

授業科目の名称		配当年次	単位数			開講状況	担当教員
			必修	選択	自由		
基礎研究科目	キリスト教社会福祉・いのち学	1・2		2		閉講	石　居　基　夫
	社会福祉援助方法総論	1		2		閉講	福　島　喜代子
	社会福祉法政策論	1		2		閉講	金　子　和　夫
	社会福祉調査法Ⅰ	1		2		閉講	山　口　麻　衣
	社会福祉調査法Ⅱ	1		2		閉講	浅　野　貴　博
専門科目	高齢者福祉研究	1・2		2		閉講	市　川　一　宏
	司法福祉研究	1・2		2		閉講	西　原　雄次郎
	社会的弱者の自立支援研究	1・2		2		休講	
	障害者福祉研究	1・2		2		閉講	髙　山　由美子
	児童家庭福祉研究	1・2		2		閉講	加　藤　　純
	地域福祉研究（隔年開講）	1・2		2		閉講	市　川　一　宏
	精神保健福祉研究	1・2		2		閉講	倉　本　英　彦
	スーパービジョン研究	1・2		2		閉講	福　山　和　女
	家族支援コンサルテーション研究	1・2		2		閉講	福　山　和　女
	非営利組織における人材育成管理研究（隔年開講）	1・2		2		閉講	市　川　一　宏
	国際社会福祉研究	1・2		2		閉講	原　島　　博
	実践評価・実践研究	1・2		3		閉講	山　口　麻　衣
専門演習	演習Ａ（社会福祉の制度と政策）	1		4		通年	原島　博/山口麻衣
	演習ＡⅡ（社会福祉の制度と政策）	2		4		通年	原島　博/山口麻衣
	演習Ｂ（社会福祉方法と技法）	1		4		通年	福島喜代子/髙山由美子
	演習ＢⅡ（社会福祉方法と技法）	2		4		通年	福島喜代子/髙山由美子
実習	実習	1・2		3		閉講	髙　山　由美子

	日本語論文の書き方（留学生対象）	1・2			2※	閉講	ドイル　綾　子

※留学生のみ履修可能　卒業要件単位には含まれない

演習 A（社会福祉の制度と政策）

4単位：通年	1年
原島　博、山口　麻衣	

［到達目標］

（ねらい）

この演習では、制度・政策上の問題点について、時間的な変化・発展を縦軸にとし、国際比較を横軸として、深くまた広い視野を持った研究を行い、参加者の社会福祉制度、政策についての見識の深化、発展を目指す。

［履修の条件］

なし

［講義概要］

この演習では、上記２人の教員が原則として個別に指導、助言にあたるが、必要に応じて合同ゼミを持つ。

■授業計画

第1回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第2回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第3回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第4回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第5回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第6回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第7回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第8回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第9回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第10回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第11回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第12回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第13回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第14回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第15回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第16回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第17回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第18回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第19回　第19回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第20回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第21回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第22回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第23回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第24回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第25回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第26回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第27回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第28回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第29回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。

第30回　－

［成績評価］

試験（0％）、レポート（70％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（30％）

[成績評価（備考）]
レポートは各自十分な準備をして行うこと。メンバーはレポートに対して活発な検討ができる準備すること

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
院生の修士論文指導として行うものであり、ゼミでの指導をもとに、院生は修士論文指導担当教員から個別指導を受け、課題の達成に努める。自己学習⇒修士論文指導担当教員からの指導⇒自己学習⇒ゼミでの発表と教員からのコメント⇒修士論文指導担当教員からの指導⇒自己学習という学習サイクルに位置づけられる。

[試験・レポート等のフィードバック]
報告の際にレジメを提出して、コメントを受ける。さらに上記学習サイクルに基づき、院生は学習を進める。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2. 人権や社会正義を価値基盤とし、倫理や法を遵守する能力を有する。」「3. クライエントやクライエントを取り巻く環境に関する課題を理解し、適切にアセスメントし、ニーズの充足や課題解決に向けて支援をする実践力を有する。」「5. 社会福祉学の理論を科学的に追求し、地域社会に還元し、貢献する能力を有する。」に該当する。
この科目を履修することで、高度な専門的職に必要とされる知識や技術、人権と生活を守る能力を身につけることとなる。

[テキスト]
必要に応じて随時示す。

[参考文献]
必要に応じて随時示す。

[備考]
特になし

演習 A II（社会福祉の制度と政策）

4単位：通年	2年
原島　博、山口　麻衣	

[到達目標]
（ねらい）
この演習では、参加者個々人の関心を基本において社会福祉の制度・政策上の問題点について、時間的な変化・発展を縦軸とし、国際比較を横軸として、深くまた広い視野をもった研究を行い、参加者の社会福祉制度、政策についての見識の深化、発展を目指す。

[履修の条件]
なし

[講義概要]
この演習では、上記２人の教員が原則として個別に、指導、助言にあたるが、必要に応じて合同ゼミを持つ。

■授業計画

第１回　順番（各回１名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
第２回　順番（各回１名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
第３回　順番（各回１名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
第４回　順番（各回１名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
第５回　順番（各回１名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
第６回　順番（各回１名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
第７回　順番（各回１名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
第８回　順番（各回１名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
第９回　順番（各回１名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
第10回　順番（各回１名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
第11回　順番（各回１名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
第12回　順番（各回１名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
第13回　順番（各回１名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
第14回　順番（各回１名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
第15回　順番（各回１名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
第16回　順番（各回１名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
第17回　順番（各回１名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
第18回　順番（各回１名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
第19回　順番（各回１名程度）に院生が各自の修士論文テー

マに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
第20回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
第21回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
第22回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
第23回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
第24回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
第25回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
第26回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
第27回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
第28回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
第29回　順番（各回1名程度）に院生が各自の修士論文テーマに基づく研究発表を行い、評価研究を行い研究を深める。
第30回　－

［成績評価］
試験（0%）、レポート（70%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（30%）

［成績評価（備考）］
レポートは各自十分な準備をして行うこと。メンバーはレポートに対し活発な検討ができる準備をすること

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
院生の修士論文指導として行うものであり、ゼミでの指導をもとに、院生は修士論文指導担当教員から個別指導を受け、課題の達成に努める。自己学習⇒修士論文指導担当教員からの指導⇒自己学習⇒ゼミでの発表と教員からのコメント⇒修士論文指導担当教員からの指導⇒自己学習という学習サイクルに位置づけられる。

［試験・レポート等のフィードバック］
報告の際にレジメを提出し、コメントを受ける。さらに上記学習サイクルに基づき、院生は学習を進める。

［ディプロマポリシーとの関連性］
「2. 人権や社会正義を価値基盤とし、倫理や法を遵守する能力を有する。」「3. クライエントやクライエントを取り巻く環境に関する課題を理解し、適切にアセスメントし、ニーズの充足や課題解決に向けて支援をする実践力を有する。」「5. 社会福祉学の理論を科学的に追求し、地域社会に還元し、貢献する能力を有する。」に該当する。
この科目を履修することで、高度な専門的職に必要とされる知識や技術、人権と生活を守る能力を身につけることとなる。

［テキスト］
必要に応じて随時示す。

［参考文献］
必要に応じて随時示す。

［備考］
特になし

演習 B（社会福祉方法と技法）

4単位：通年	1年
福島　喜代子、髙山　由美子	

［到達目標］
ソーシャルワーク研究について、基本的な姿勢を身につける。
自らのテーマに関する先行研究をまとめる力を身につける。
自らのテーマに関する調査研究を遂行する力をつける。
自らのテーマに関する調査結果について、分析し、考察を深める力をつける。
ソーシャルワーカーとしての実践力をつける。

［履修の条件］
ソーシャルワークに関する研究テーマを有する者であれば履修できる。特に、ソーシャルワーク、権利擁護、社会的弱者（障害者、高齢者、母子、子ども等）やその家族の支援、ソーシャルワーク専門職等に関するテーマであればなおよい。
第2回、第5回、第8回、第10回、第12回、第14回は原則対面の授業とする。その他の週は双方向性の担保されたオンラインによる授業を行う。

［講義概要］
発表や討議を通して、ソーシャルワーク研究の理論や実践に焦点をあてた研究を深める。
特に修士論文執筆に向けて、討論や指導を行う。

■授業計画
第1回　ソーシャルワークとソーシャルワーク実践
第2回　社会福祉現場における問題意識
第3回　研究テーマと先行研究
第4回　研究の背景（問題の現状）Ⅰ
第5回　研究の背景（問題の現状）Ⅱ
第6回　研究の背景（制度・政策の整理）Ⅰ
第7回　研究の背景（制度・政策の整理）Ⅱ
第8回　リサーチクエスチョンや仮説の立て方Ⅰ
第9回　リサーチクエスチョンや仮説の立て方Ⅱ
第10回　先行研究のまとめ（対象者）Ⅰ

第11回　先行研究のまとめ（対象者）Ⅱ
第12回　先行研究のまとめ（概念）Ⅰ
第13回　先行研究のまとめ（概念）Ⅱ
第14回　先行研究のまとめ（方法・アプローチ）Ⅰ
第15回　先行研究のまとめ（方法・アプローチ）Ⅱ
第16回　先行研究のまとめ（方法・アプローチ）Ⅲ
第17回　調査の計画、調査の方法、サンプリング等Ⅰ
第18回　調査の計画、調査の方法、サンプリング等Ⅱ
第19回　倫理審査に向けての準備
第20回　調査の方法（質的調査）Ⅰ
第21回　調査の方法（質的調査）Ⅱ
第22回　調査の方法（量的調査）Ⅰ
第23回　調査の方法（量的調査）Ⅱ
第24回　調査結果の分析Ⅰ
第25回　調査結果の分析Ⅱ
第26回　考察（調査の結果についての総合的な考察）
第27回　考察（先行研究との比較）
第28回　考察（調査の限界と課題）
第29回　^
第30回　^

［成績評価］
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（50%）、その他の評価方法（50%）

［成績評価（備考）］
討議や発表による授業への貢献度を評価する。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。各自自分の研究テーマに基づいた先行研究を調べ、整理し、発表を重ねていく。リサーチクエスチョンあるいは仮説をたて、調査研究をすすめ、その結果や考察について発表を行う。

［試験・レポート等のフィードバック］
発表時のレポート（レジュメ）について、発表の事前事後にコメントを行う。授業時のコメントと、個別指導の内容をもとに、修士論文を仕上げていく。

［ディプロマポリシーとの関連性］
ディプロマポリシーの「5. 社会福祉学の理論を科学的に追求し、地域社会に還元し、貢献する能力を有する。」に該当する。この科目を履修することで、社会福祉学に関する高度な知識や技術を備え、高度な専門職業人としてのソーシャルワーカー、または、社会福祉施設・機関における運営・管理者としての研究能力がつくことになる。

［テキスト］
適宜紹介をしていく。

［参考文献］
適宜紹介をしていく。

演習BⅡ（社会福祉方法と技法）

4単位：通年	2年
福島　喜代子、髙山　由美子	

［到達目標］
ソーシャルワーク研究について、基本的な姿勢を身につける。
自らのテーマに関する先行研究をまとめる力を身につける。
自らのテーマに関する調査研究を遂行する力をつける。
自らのテーマに関する調査結果について、分析し、考察を深める力をつける。
ソーシャルワーカーとしての実践力をつける。

［履修の条件］
ソーシャルワークに関する研究テーマを有する者であれば履修できる。特に、ソーシャルワーク、権利擁護、社会的弱者（障害者、高齢者、母子、子ども等）やその家族の支援、ソーシャルワーク専門職等に関するテーマであればなおよい。
第2回、第5回、第8回、第10回、第12回、第14回は原則対面の授業とする。その他の週は双方向性の担保されたオンラインによる授業を行う。

［講義概要］
発表や討議を通して、ソーシャルワーク研究の理論や実践に焦点をあてた研究を深める。
特に修士論文執筆に向けて、討論や指導を行う。

■授業計画
第1回　ソーシャルワークとソーシャルワーク実践
第2回　社会福祉現場における問題意識
第3回　研究テーマと先行研究
第4回　研究の背景（問題の現状）Ⅰ
第5回　研究の背景（問題の現状）Ⅱ
第6回　研究の背景（制度・政策の整理）Ⅰ
第7回　研究の背景（制度・政策の整理）Ⅱ
第8回　リサーチクエスチョンや仮説の立て方Ⅰ
第9回　リサーチクエスチョンや仮説の立て方Ⅱ
第10回　先行研究のまとめ（対象者）Ⅰ
第11回　先行研究のまとめ（対象者）Ⅱ
第12回　先行研究のまとめ（概念）Ⅰ
第13回　先行研究のまとめ（概念）Ⅱ
第14回　先行研究のまとめ（方法・アプローチ）Ⅰ
第15回　先行研究のまとめ（方法・アプローチ）Ⅱ
第16回　先行研究のまとめ（方法・アプローチ）Ⅲ
第17回　調査の計画、調査の方法、サンプリング等Ⅰ
第18回　調査の計画、調査の方法、サンプリング等Ⅱ
第19回　倫理審査に向けての準備
第20回　調査の方法（質的調査）Ⅰ
第21回　調査の方法（質的調査）Ⅱ
第22回　調査の方法（量的調査）Ⅰ
第23回　調査の方法（量的調査）Ⅱ
第24回　調査結果の分析Ⅰ
第25回　調査結果の分析Ⅱ
第26回　考察（調査の結果についての総合的な考察）
第27回　考察（先行研究との比較）
第28回　考察（調査の限界と課題）

第29回　^
第30回　^

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(50%)

[成績評価(備考)]
討議や発表による授業への貢献度を評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。各自自分の研究テーマに基づいた先行研究を調べ、整理し、発表を重ねていく。リサーチクエスチョンあるいは仮説をたて、調査研究をすすめ、その結果や考察について発表を行う。

[試験・レポート等のフィードバック]
発表時のレポート(レジュメ)について、発表の事前事後にコメントを行う。授業時のコメントと、個別指導の内容をもとに、修士論文を仕上げていく。

[ディプロマポリシーとの関連性]
ディプロマポリシーの「5. 社会福祉学の理論を科学的に追求し、地域社会に還元し、貢献する能力を有する。」に該当する。この科目を履修することで、社会福祉学に関する高度な知識や技術を備え、高度な専門職業人としてのソーシャルワーカー、または、社会福祉施設・機関における運営・管理者としての研究能力がつくことになる。

[テキスト]
適宜紹介をしていく。

[参考文献]
適宜紹介をしていく。

博士後期課程

履修要項／授業科目表／研究指導概要／
講義内容

〈別表1〉

博士後期課程研究指導教員名簿

博士後期課程研究指導教員名簿			
教　授	福　島　喜代子	教　授	山　口　麻　衣
教　授	髙　山　由美子	教　授	原　島　　博
教　授	石　居　基　夫	教　授	田　副　真　美

博士後期課程研究指導概要

研　究　指　導　概　要
福島　喜代子 わが国では、社会福祉の現場で、制度・政策の充実が進む一方、少子高齢社会、人口減少傾向の折り、財政面での制約もあり、サービスを効果的、効率的に提供する必要性がますます高まってきている。 このような中、ソーシャルワーク専門職の理論や方法のさらなる発展が求められ、社会福祉現場での相談援助の理論や方法についての研究に対するニーズも高まってきている。また、近年、根拠に基づくプログラムの提供や実践の必要性の認識が高まってきており、高度な質的・量的な研究が求められている。 そこで、この研究系では、ソーシャルワーク、専門職スキル、精神保健福祉、権利擁護、家族支援などをキーワードとする研究について研究指導を行う。
山口　麻衣 人口減少・少子高齢社会の我が国におけるケアに関する課題は生活支援における実践課題でもあり、政策課題でもある。フォーマルなケアとインフォーマルなケアがどのように関連しつつ、地域において包括的なケアを作り上げることができるのだろうか。専門職としてのソーシャルワーカーの役割は何か。この研究系では、高齢者福祉研究やケア研究に関するテーマを中心に、社会福祉調査研究法についても体系的に学びを深め、各自のテーマで実証研究論文が執筆できるよう研究指導を行う。
髙山　由美子 ノーマライゼーションの理念が障がい福祉のみならず、社会福祉の営みを支える重要な理念として認識される中、地域共生社会の実現を目指した様々な施策や支援のあり方が模索されている。しかし、誰もがその人らしい暮らしを築く権利があるとされながら、その権利の実現が難しい状況におかれている人々の存在がある。 人々が直面する生活上の課題は多様であるが、その解決においてはより一層、ソーシャルという視点が不可欠であることが認識されつつある。そして、地域社会における権利擁護という視点を前提として、社会福祉専門職はどのようにソーシャルワークに取り組むのかといった研究の必要性が高まっている。障がい福祉、地域包括ケア、利用者支援の仕組み、社会福祉専門職支援等の視点から研究指導を行う。
原島　博 グローバリゼーションの流れの中で、国際的相互関係が進展し、経済格差による貧困をはじめとする社会問題から人々の移動による生活課題が増加している。国際主義の立場から国際条約、人間の安全保障論から SDGs にかかわり、国際福祉および国際的脈略の中で生じている国内福祉に焦点をあて、国際協力、社会政策、社会福祉制度・サービスの在り方を検討する。 この研究系では、社会開発、国際協力、国際ソーシャルワーク、多文化ソーシャルワークなどをキーワードとする研究について研究指導を行う。
石居　基夫 地域包括ケアシステムの実現が目指される中、単に高齢者福祉の分野のみならず、福祉の様々な分野において生活者（対象者およびその家族も含め）の全人的ケアのニーズが広く知られてくることとなる。それに関連して、処遇・対人援助の現場における人のいのちと尊厳を守ること、またスピリチュアルな領域の持つ意味をあらためて問い直す必要も生じてきていると考えられる。 この研究系についての研究指導は、主として社会福祉におけるスピリチュアル・ウェルビーイング、ならびにいのち学、生命倫理について行う。
田副　真美 社会福祉実践研究において、アセスメント、介入およびその効果測定を臨床心理学の視点から検討する。また、得られた知見を、支援者支援や他職種連携に資する研究へと展開する指導を行う。

〈別表2〉

2019年度以降入学者　博士後期課程授業科目表

分野	授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	開講状況	担当教員
専門研究指導科目	社会福祉学専門研究指導Ⅰ	1	2			通年	福島、山口、髙山、原島、石居
	社会福祉学専門研究指導Ⅱ	2	2			通年	福島、山口、髙山、原島、石居
	社会福祉学専門研究指導Ⅲ	3	2			通年	福島、山口、髙山、原島、石居、田副
専門研究演習科目	社会福祉学専門研究演習Ⅰ	1	2			通年	福島、山口、髙山、原島、石居
	社会福祉学専門研究演習Ⅱ	2	2			通年	福島、山口、髙山、原島、石居、田副
自由選択科目	社会福祉学学生指導法（プレFD）	1・2・3			1	通年	福島、山口、髙山、原島
課程共通科目	社会福祉調査法Ⅰ	1・2		2		通年	山口　麻衣
	社会福祉調査法Ⅱ	1・2		2		通年	山口　麻衣

図　博士後期課程　スケジュール

1年前期		
	4月	指導教員登録
	5月	第1次研究計画書提出
1年後期		
	9–10月	第2次研究計画書提出
	3月	年度末レポート提出
2年前期		
	4–5月	最終研究計画書提出
2年後期		
	10月	博士論文中間報告会
	1月	博士論文提出資格試験申し込み
	2月	博士論文提出資格試験
	2–3月	博士論文提出資格試験合格発表
	3月	年度末レポート提出
3年前期		
	5月	博士論文提出
	9月	博士論文学内審査
3年後期		
	12–3月	博士論文口述試験
	12–3月	博士論文審査
	3月	修了（学位授与）
	〈後期提出の場合〉	
	10月	博士論文提出（後期提出）
	1月	博士論文学内審査（後期提出の場合）
	4–7月	博士論文口述試験（後期提出の場合）
	4–7月	博士論文審査（後期提出の場合）
	9月	修了（学位授与）

＊コースワークとリサーチワークにより指導

社会福祉学専門研究指導Ⅲ

2単位：通年	3年　必修
福島　喜代子、山口　麻衣、髙山　由美子、原島　博、石居　基夫、田副　真美	

［到達目標］
社会福祉学における研究者として自立して活動し、あるいは指導的な高度の専門業務に従事するために必要な能力や知識をみにつける。

［履修の条件］
ソーシャルワークの領域における研究に関心があり、社会科学的な手法による研究を、自立した研究者として、自ら計画、推進し、主査や副査の指導を受けて完成させていきたいという姿勢を有する者。

［講義概要］
ソーシャルワークの領域における研究について、研究テーマに基づき、網羅的に、関係する概念と先行研究をまとめ、リサーチクエスチョンや仮説をたて、調査の計画をたて、推進し、結果を分析し、考察していく。その過程において、指導を受ける。

■授業計画

第1回　ソーシャルワークとソーシャルワーク実践
第2回　社会福祉現場における問題意識
第3回　研究テーマと先行研究
第4回　研究の背景（問題の現状）Ⅰ
第5回　研究の背景（制度・政策の整理）Ⅰ
第6回　先行研究のまとめ（対象者）Ⅰ　網羅的に
第7回　先行研究のまとめ（対象者）Ⅱ　網羅的に
第8回　先行研究のまとめ（概念）Ⅰ　本稿での概念定義も含め
第9回　先行研究のまとめ（方法・アプローチ）Ⅰ　網羅的に
第10回　先行研究のまとめ（方法・アプローチ）Ⅱ　網羅的に
第11回　先行研究のまとめ（制度政策・実践報告）Ⅰ
第12回　先行研究のまとめ（制度政策・実践報告）Ⅱ
第13回　リサーチクエスチョンや仮説の立て方Ⅰ
第14回　リサーチクエスチョンや仮説の立て方Ⅱ
第15回　調査の計画、調査の方法、サンプリング等Ⅰ
第16回　調査の計画、調査の方法、サンプリング等Ⅱ
第17回　倫理審査に向けての準備
第18回　調査の方法（質的調査）Ⅰ
第19回　調査の方法（質的調査）Ⅱ
第20回　調査の方法（量的調査）Ⅰ
第21回　調査の方法（量的調査）Ⅱ
第22回　調査結果の分析Ⅰ
第23回　調査結果の分析Ⅱ
第24回　考察（調査の結果についての総合的な考察）
第25回　考察（先行研究との比較）
第26回　考察（調査の限界と課題）
第27回　考察（ソーシャルワークへの示唆）
第28回　研究推進の評価
第29回　－
第30回　－

［成績評価］
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（50%）、その他の評価方法（50%）

［成績評価（備考）］
自立した研究者として、自ら計画、推進し、主査や副査の指導を受けていく姿勢と、博士論文に向けての執筆状況、研究の推進状況を評価する。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。自立した研究者として、研究テーマに基づき、網羅的に、関係する概念と先行研究をまとめ、リサーチクエスチョンや仮説をたて、調査の計画をたて、推進し、結果を分析し、考察していく。

［試験・レポート等のフィードバック］
個別指導の内容をもとに、博士論文を仕上げていく。

［ディプロマポリシーとの関連性］
ディプロマポリシーの「社会福祉学に関する研究者として自立した研究能力を有する」および「社会福祉学の発展に貢献し得る指導的な立場の研究者、教育者、施設・機関の運営管理者、実践家として活躍するための能力を有する」に該当する。この科目を履修することで、社会福祉学に関する幅広い知識と高度な技術を備え、社会福祉学の研究者・教育者、または、社会福祉の実践理論と法政策に通じた施設・機関の運営管理のエキスパートとしての能力と知識がつくことになる。

［テキスト］
適宜紹介をしていく。

［参考文献］
適宜紹介をしていく。

社会福祉学専門研究演習Ⅱ

2単位：通年	2年　必修
福島　喜代子、山口　麻衣、髙山　由美子、原島　博、石居　基夫、田副　真美	

［到達目標］
研究者として自立して活動し、あるいは指導的な高度の専門業務に従事するために必要な能力や知識をみにつける。社会福祉学分野における研究者として自立して研究活動を実施し、また、指導的な高度の専門業務に従事できるようになる。

［履修の条件］
ソーシャルワークの領域における研究に関心があり、社会科学的な手法による研究を、自立した研究者として、自ら計画、推進し、指導を受けて完成させていきたいという姿勢を有する者。前期・後期にそれぞれ1度は発表を行うこととする。また、授業に参加し、他の者の研究の発表を聴き、討議に参加し、その理解と考察を深める必要がある。

［講義概要］
ソーシャルワークの領域における研究について、研究テーマに基づき、網羅的に、関係する概念と先行研究をまとめ、リサーチクエスチョンや仮説をたて、調査の計画をたて、推進し、結果を分析し、考察していく。その過程において発表する。また、授業に参加し、他の者の研究の発表を聴き、討議に参加し、その理解と考察を深める必要がある。
発表時の資料について、発表の事前事後にコメントを行う。授業時のコメントと、個別指導の内容をもとに、博士論文を仕上げていく。

■授業計画

第1回　ソーシャルワークとソーシャルワーク実践
第2回　社会福祉現場における問題意識
第3回　研究テーマと先行研究
第4回　研究の背景（問題の現状）Ⅰ
第5回　研究の背景（制度・政策の整理）Ⅰ
第6回　先行研究のまとめ（対象者）Ⅰ　網羅的に
第7回　先行研究のまとめ（対象者）Ⅱ　網羅的に
第8回　先行研究のまとめ（概念）Ⅰ　本稿での概念定義も含め
第9回　先行研究のまとめ（方法・アプローチ）Ⅰ　網羅的に
第10回　先行研究のまとめ（方法・アプローチ）Ⅱ　網羅的に
第11回　先行研究のまとめ（制度政策・実践報告）Ⅰ
第12回　先行研究のまとめ（制度政策・実践報告）Ⅱ
第13回　リサーチクエスチョンや仮説の立て方Ⅰ
第14回　リサーチクエスチョンや仮説の立て方Ⅱ
第15回　調査の計画、調査の方法、サンプリング等Ⅰ
第16回　調査の計画、調査の方法、サンプリング等Ⅱ
第17回　倫理審査に向けての準備
第18回　調査の方法（質的調査）Ⅰ
第19回　調査の方法（質的調査）Ⅱ
第20回　調査の方法（量的調査）Ⅰ
第21回　調査の方法（量的調査）Ⅱ
第22回　調査結果の分析Ⅰ
第23回　調査結果の分析Ⅱ
第24回　考察（調査の結果についての総合的な考察）
第25回　考察（先行研究との比較）
第26回　考察（調査の限界と課題）
第27回　考察（ソーシャルワークへの示唆）
第28回　研究推進の評価
第29回　－
第30回　－

［成績評価］
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（50%）、その他の評価方法（50%）

［成績評価（備考）］
討議や発表による授業への貢献度を評価する。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。各自自分の研究テーマに基づいた先行研究を調べ、整理し、発表を重ねていく。リサーチクエスチョンあるいは仮説をたて、調査研究をすすめ、その結果や考察について発表を行う。

［試験・レポート等のフィードバック］
発表時のレポート（レジュメ）について、発表の事前事後にコメントを行う。授業時のコメントと、個別指導の内容をもとに、博士論文を仕上げていく。

［ディプロマポリシーとの関連性］
ディプロマポリシーの「社会福祉学に関する研究者として自立した研究能力を有する」および「社会福祉学の発展に貢献し得る指導的な立場の研究者、教育者、施設・機関の運営管理者、実践家として活躍するための能力を有する」に該当する。この科目を履修することで、社会福祉学に関する幅広い知識と高度な技術を備え、社会福祉学の研究者・教育者、または、社会福祉の実践理論と法政策に通じた施設・機関の運営管理のエキスパートとしての、研究能力が身につくことになる。

［テキスト］
適宜紹介をしていく。

［参考文献］
適宜紹介をしていく。

臨床心理学専攻

修士課程

表2–1　総合人間学研究科臨床心理学専攻　修士課程（2026年度）

授業科目の名称			担当教員	配当年次	単位数又は時間数			開講状況
					必修	選択	自由	
基礎研究科目		臨床心理学特論Ⅰ	加藤　純	1・2	2			閉講
		臨床心理学特論Ⅱ	植松晃子	1・2	2			閉講
		臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	石川与志也	1・2	2			閉講
		臨床心理面接特論Ⅱ	田副真美	1・2	2			閉講
		臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	田副真美	1・2	2			閉講
		臨床心理査定演習Ⅱ	植松晃子	1・2	2			閉講
実習		臨床心理基礎実習Ⅰ	※1	1	1			閉講
		臨床心理基礎実習Ⅱ	※1	1	1			閉講
		臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）	※2	2		1		閉講
		臨床心理実習Ⅱ	※2	2		1		閉講
特別研究		特別研究A	加藤　純/田副真美/植松晃子/石川与志也	1・2	4			通年
		特別研究B		1・2	4			閉講
		特別研究コンサルテーションⅠA	谷井淳一	1			1	閉講
		特別研究コンサルテーションⅠB	谷井淳一	1			1	閉講
		特別研究コンサルテーションⅡA	谷井淳一	2			1	前期1
		特別研究コンサルテーションⅡB	谷井淳一	2			1	後期1
専門科目	臨床心理援助方法研究領域	心理学研究法特論	北村英哉	1・2		2		閉講
		心理統計法特論Ⅰ	谷井淳一	1・2		2		閉講
		心理統計法特論Ⅱ	谷井淳一	1・2		2		閉講
		臨床心理学研究法特論	加藤　純	1・2		2		閉講
		発達心理学特論	石川与志也	2		2		閉講
		教育心理学特論	北村英哉	1・2		2		閉講
		司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	室城隆之	1・2		2		閉講
		家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	福山和女	1・2		2		閉講
		精神医学特論	倉本英彦	1・2		2		閉講
		心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	中島　享	1・2		2		閉講
		心理療法特論Ⅰ（交流分析）	白井幸子	1・2		2		閉講
		心理療法特論Ⅱ（児童臨床心理）	加藤　純	1・2		2		閉講
		投映法特論	浦田絵里	1・2		2		閉講
		サイコドラマ特論	谷井淳一	1・2		2		閉講
		心理療法スーパービジョン特論	福山和女	1・2		2		閉講
		福祉分野に関する理論と支援の展開	加藤　純	1・2		2		閉講
		学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	河上純子	1・2		2		閉講
		産業・労働分野に関する理論と支援の展開	中村洸太	1・2		2		閉講
		心の健康教育に関する理論と実践	田副真美	1・2		2		閉講

授業科目の名称			担当教員	配当年次	単位数又は時間数			開講状況
					必修	選択	自由	
専門科目	キリスト教と臨床心理学研究領域	キリスト教倫理学特論	石居基夫	1・2		2		前期1
		牧会カウンセリング特論	ジェームス・サック	1		2		閉講
		臨床死生学特論	白井幸子	1・2		2		閉講

※1 植松晃子、加藤純
※2 田副真美、植松晃子、加藤純、石川与志也

	日本語論文の書き方（留学生対象）		1・2	2※			閉講

※留学生のみ必修　卒業要件単位には含まれない

表2–2　日本臨床心理士資格認定協会指定科目との対照表

日本臨床心理士資格認定協会指定科目				本学開講科目				
必修科目		臨床心理学特論	4	基礎研究科目	臨床心理学特論Ⅰ	2	臨床心理学特論Ⅱ	2
		臨床心理面接特論	4		臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	2	臨床心理面接特論Ⅱ	2
		臨床心理査定演習	4		臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	2	臨床心理査定演習Ⅱ	2
		臨床心理基礎実習	2	実習	臨床心理基礎実習Ⅰ	1	臨床心理基礎実習Ⅱ	1
		臨床心理実習	2		臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）	1	臨床心理実習Ⅱ	1
選択必修科目	A群	心理学研究法特論		専門科目	心理学研究法特論	2		
		心理統計法特論			心理統計法特論Ⅰ	2	心理統計法特論Ⅱ	2
		臨床心理学研究法特論			臨床心理学研究法特論	2		
	B群	人格心理学特論			発達心理学特論	2		
		発達心理学特論、等			教育心理学特論	2		
	C群	社会心理学特論			司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	2		
		集団力学特論、等			家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2		
	D群	精神医学特論			精神医学特論	2		
		心身医学特論、等			心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2		
	E群	学校臨床心理学特論			心理療法特論Ⅰ（交流分析）	2		
		心理療法特論、等			心理療法特論Ⅱ（児童臨床心理）	2		
					投映法特論	2		

表2–3　公認心理師に必要な科目

厚生労働省の定める科目名	本学における科目名
保健医療分野に関する理論と支援の展開	心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）
福祉分野に関する理論と支援の展開	福祉分野に関する理論と支援の展開
教育分野に関する理論と支援の展開	学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）
司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開
産業・労働分野に関する理論と支援の展開	産業・労働分野に関する理論と支援の展開

厚生労働省の定める科目名	本学における科目名
心理的アセスメントに関する理論と実践	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）
心理支援に関する理論と実践	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）
家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）
心の健康教育に関する理論と実践	心の健康教育に関する理論と実践
心理実践実習	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）

修士論文の基準

1．修士論文の基準

臨床心理学専攻における修士論文とは、臨床心理学に関する主題に関する研究論文とし、先行研究をもとに具体的な検討課題（研究テーマ）を定め、客観的な研究手法を用いて事実を探索または検証し、考察を加えたものとする。

研究手法としては、調査研究、実験研究、事例研究などのうち課題の探索や検証に相応しい方法を選択するものとし、量的研究、質的研究のいずれも認められる。研究テーマや研究手法や研究結果および考察には一定のオリジナリティのあることが望ましい。

修士論文は研究論文に相応しい体裁を整えたものでなければならない。本文は、研究過程を踏まえて、問題と目的・方法・結果・考察の4要素を含めて構成する。本文の他に、研究の概要、目次、文献一覧、巻末資料、謝辞などを加える。

2．修士論文の評価

修士論文の評価は以下に示す⑴から⑹までの評価基準に従って評価（論文評価）を行い、最終的に優、良、可、不可の4段階で行われる。この評価は、主査および副査によって口頭試問に先立って実施される。

また、専攻に属する教員全員の前で修士論文発表会兼審査会（口頭試問）が実施され、⑴から⑻までの基準に従い評価（口頭発表の評価）が行われる。

【主査教員、副査教員による論文の評価】

⑴　先行研究の検討がよく行われているか。
⑵　文章が論理的で、論旨の展開にも問題点がみられないか。
⑶　研究方法が適切か、データ分析が正しく行われているか。
⑷　研究にオリジナリティが認められるか。
⑸　論文全体の文章が正しいか。誤字・脱字がないか。
⑹　引用要約が正しくなされているか、巻末の文献が正しく整理されているか。

【修士論文最終発表会での評価】

上記の⑴から⑹の評価に加えて、

⑺　発表の方法は適切か、正しく結果が伝えられたか。
⑻　発表の態度や質疑応答が適切であったか。

の2点を加え、各教員毎に、優、良、可、不可の4段階で評価する。

主査教員・副査教員による論文評価に口頭発表の評価を加味して総合的な評価が行われる。最終的な評価は、優、良、可、不可の4段階とする。

特別研究 A（臨床心理援助方法研究）

4単位：通年	1～2年　必修
加藤　純、田副　真美、植松　晃子、石川　与志也	

［到達目標］
臨床心理に関する研究課題を設定できるようになる。
設定した研究課題に関する文献研究ができるようになる。
設定した研究課題に関する実証研究ができるようになる。
研究成果を論文にまとめられるようになる。

［履修の条件］
「特別研究」は臨床心理学専攻の必修科目である。特別研究を通年4単位を2年間、合計8単位を履修する必要がある。

［講義概要］
大学院での個々の講義や演習および実習を通して学んだ臨床心理の理論と技法を統合するため、また臨床心理援助の対象となる課題に関する理解を深めるために、各自がテーマを定めて研究する。担当教員ごとにゼミ形式の授業が実施される。また、1年次に1回、2年次に2回の中間発表を行う。
ゼミでは、各自の進度に合わせて、関心のあるテーマの選定、研究課題としての具体化、文献研究の報告、量的研究方法や質的研究方法の紹介、研究計画書の作成、調査紙の作成、面接調査の練習、研究倫理委員会への提出書類作成、収集したデータの整理と報告、データの分析・考察などを進めていく。
下記のスケジュールは例年のものを参考に作成している。基本的にゼミごとに進むため、参考にとどめてほしい。

■授業計画

第1回　特別研究の目的、進め方
第2回　春休み中の研究活動の報告。
第3回　実証研究実施状況の報告。
第4回　データ分析の方針検討。
第5回　データ分析の方針検討。
第6回　データ分析。
第7回　データ分析。
第8回　データ分析。
第9回　データ分析。
第10回　データ分析。
第11回　データ分析。
第12回　データ分析。
第13回　データ分析。
第14回　データ分析。
　　夏休み中の研究活動の計画。
第15回　分析結果に基づく仮説の考察。
第16回　分析結果に基づく仮説の考察。
第17回　分析結果に基づく仮説の考察。
第18回　分析結果に基づく仮説の考察。
第19回　分析結果に基づく仮説の考察。
第20回　結果と考察の再検討。
第21回　先行研究と関連づけた考察。
第22回　研究の臨床心理的意義の考察。
第23回　各自の研究の限界と今後の課題。
第24回　修士論文最終稿ゼミ内で締め切り。
第25回　修士論文最終稿の修正指示。
第26回　修士論文提出原稿の確認。
第27回　最終発表・口述試験の準備。
第28回　2年最終発表会・口述試験
第29回　－
第30回　－

［成績評価］
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（30%）、その他の評価方法（70%）

［成績評価（備考）］
授業への参加状況および研究への取り組み、中間発表、その他の課題、研究成果などにより総合的に評価する。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
各自が研究課題を設定して文献研究・実証研究・論文執筆を進める。研究を進める際に必要となる研究計画書（中間発表資料を兼ねる）、研究倫理審査申請書、説明書や同意書などを作成する。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［試験・レポート等のフィードバック］
毎回の授業で、研究の進捗状況と内容について院生各自からの報告を受け、意見交換し、指導教員からコメントする。
研究計画書、研究倫理審査申請書、説明書・同意書、最終発表会配布資料など、院生が作成した原稿をゼミで検討し、必要に応じて面談またはメールなどで個別に修正方針を伝える。
中間発表会に院生と教員が全員参加し質疑応答をする他、発表会後に個別にも助言する。
提出された修士論文に対し、口述試験の際に主査・副査から評価を伝え、修正箇所を指示する。評価表の自由記述部分を渡す。最終発表会に出席した教員も質疑応答に参加する。

［ディプロマポリシーとの関連性］
この科目を履修することにより高度な知識や技術を備えた専門家として業務を担うべく、ディプロマポリシーに定める臨床心理の専門家としての使命と社会的責任を自覚し、生涯にわたる研鑽の必要性を認識し、研鑽に必要な研究能力や指導を受ける能力を有し、さらに研究を通して倫理や法令の理解と遵守、クライエントへの臨床的支援や他職種の専門家との連携の観点やその能力を修得することを目標とする。

［テキスト］
特に定めない。

［参考文献］
研究内容に関する文献は各自が研究テーマに合わせて収集する。実証研究の方法やデータ分析に関する文献は各自の研究方法に合わせて収集する。論文の書き方に関して自分に合った文献を見つけて手許において参照することを勧める。

特別研究コンサルテーションⅡA

1単位：前期1コマ	2年
谷井　淳一	

［科目補足情報］
ⅠA、IB、ⅡA、ⅡBという記号がついているのは、1年生がⅠ、2年生がⅡ、それぞれ、前期がA, 後期がBとなり、半期単位で、2年間とれるようにということである。つまり、最大で4科目すべて履修可能である。

［到達目標］
修士論文作成時に、統計的処理の仕方に疑問や迷いが生じたりした際、相談に応じる科目である。もともと、私（谷井）が、今年度から非常勤になったため特別研究の指導から離れることになった。このような状況の中で、学生さんの立場で言うと、修士論文の指導、特に統計分析についてを私（谷井）から受ける余地を残そうとしてできた科目である。ただし、そうはいっても私が他の先生と比べとりわけ、統計的手法に精通しているわけではないので、私にできるのは、これまで私が授業で教えてきたことを、個々の学生さんの研究に当てはめて検討することである。

具体的には、因子分析の因子数や因子名を一緒に考えたり、分散分析や相関分析の結果を、実例に則して考察したりすることなどはできると思う。
授業は、1単位なので、2週間に1度くらいの頻度で実施する。

［履修の条件］
それで、ⅠA、IB、ⅡA、ⅡBという記号がついているのは、1年生がⅠ、2年生がⅡ、それぞれ、前期がA, 後期がBとなり、半期単位で、2年間とれるようにということである。
つまり、重複履修が可能となるように、記号を変えているということである。

［講義概要］
希望を受講者のほうから出してほしい。

■授業計画

第1回　受講者の研究を谷井にプレゼンしてもらう。それで受講者の研究の把握をしておきたい。
第2回　打ち出した出力結果をいかにうまく、表や図としてまとめるか。を指導する。
第3回　出力結果がまとまったならば、その結果が意味するものを一緒に考えて、検討する。
第4回　これを繰り返すことになる。
第5回　自分の研究の統計分析結果をコピーしやすい形でコンパクトな用紙にまとめて持参してください。
第6回　同上
第7回　同上
第8回　同上
第9回　ー

［成績評価］
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（100%）

［成績評価（備考）］
積極的に分析結果を持ち寄ってくれていれば、そのことで評価する

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
分析結果を持ち寄ることから始まる。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［試験・レポート等のフィードバック］
各段階ごとに進行具合をチェックし、それに対して、フィードバックを行ってすすめていく。

［ディプロマポリシーとの関連性］
この科目はディプロマポリシーに定める課題の発見能力、先行研究の収集分析能力、実証的研究の計画・遂行能力、データの分析能力、アカデミックな文書の作成能力を育成することを目的にする

［テキスト］
特になし

［参考文献］
「SPSSとAmosによる心理・調査データ解析」小塩真司著　東京書籍（ISBN 4-489-00675-6）

［備考］
とくになし

特別研究コンサルテーションⅡB

1単位：後期1コマ	2年
谷井　淳一	

［科目補足情報］
ⅠA、IB、ⅡA、ⅡBという記号がついているのは、1年生がⅠ、2年生がⅡ、それぞれ、前期がA, 後期がBとなり、半期単位で、2年間とれるようにということである。つまり、最大で4科目すべて履修可能である。

［到達目標］
修士論文作成時に、統計的処理の仕方に疑問や迷いが生じたりした際、相談に応じる科目である。もともと、私（谷井）が、今年度から非常勤になったため特別研究の指導から離れることになった。このような状況の中で、学生さんの立場で言うと、修士論文の指導、特に統計分析についてを私（谷井）から受ける余地を残そうとしてできた科目である。ただし、そうはいっても私が他の先生と比べとりわけ、統計的手法に精通しているわけではないので、私にできるのは、これまで私が授業で教えてきたことを、個々の学生さんの研究に当てはめて検討することである。

具体的には、因子分析の因子数や因子名を一緒に考えたり、分散分析や相関分析の結果を、実例に則して考察したりすることなどはできると思う。
授業は、1単位なので、2週間に1度くらいの頻度で実施する。

［履修の条件］
それで、ⅠA、ⅠB、ⅡA、ⅡBという記号がついているのは、1年生がⅠ、2年生がⅡ、それぞれ、前期がA, 後期がBとなり、半期単位で、2年間とれるようにということである。
つまり、重複履修が可能となるように、記号を変えているということである。

［講義概要］
自分の研究の統計分析結果をコピーしやすい形でコンパクトな用紙にまとめて持参してください。ページ番号を振ってください。人数分を谷井がコピーします。

■授業計画

第1回　受講者の研究を谷井にプレゼンしてもらう。それで受講者の研究の把握をしておきたい。
第2回　打ち出した出力結果をいかにうまく、表や図としてまとめるか。を指導する。
第3回　出力結果がまとまったならば、その結果が意味するものを一緒に考えて、検討する。
第4回　これを繰り返すことになる。
第5回　自分の研究の統計分析結果をコピーしやすい形でコンパクトな用紙にまとめて持参してください。
第6回　同上
第7回　同上
第8回　同上
第9回　ー

［成績評価］
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(100%)

［成績評価(備考)］
積極的に分析結果を持ち寄ってくれていれば、そのことで評価する

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
分析結果を持ち寄ることから始まる。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

［試験・レポート等のフィードバック］
各段階ごとに進行具合をチェックし、それに対して、フィードバックを行ってすすめていく。

［ディプロマポリシーとの関連性］
この科目はディプロマポリシーに定める課題の発見能力、先行研究の収集分析能力、実証的研究の計画・遂行能力、データの分析能力、アカデミックな文書の作成能力を育成することを目的にする

［テキスト］
特になし

［参考文献］
「SPSSとAmosによる心理・調査データ解析」小塩真司著　東京書籍(ISBN 4-489-00675-6)

［備考］
とくになし

キリスト教倫理学特論

2単位：前期1コマ	1〜2年
石居　基夫	

［科目補足情報］
キリスト教福祉といのちの倫理

［到達目標］
聖書とキリスト教の福祉的働きの実践と研究し、対人援助の専門職に必要な人間理解と倫理の基本、特に、いのちと尊厳を守るための包括的な人間理解におけるスピリチュアルな視点について学ぶ。

［履修の条件］
とくになし

［講義概要］
キリスト教的人間理解の本質、特に対人援助に必要な包括的人間理解におけるスピリチュアリティーについて、聖書と福祉的働きの実践や思想の歴史に学んでいく。

■授業計画

第1回　イントロダクション
第2回　キリスト教的人間理解の基礎
第3回　聖書における対人援助①
第4回　聖書における対人援助②
第5回　キリスト教と対人援助(実践と思想)①
第6回　キリスト教と対人援助(実践と思想)②
第7回　いのちの倫理とスピリチュアルケア①
第8回　いのちの倫理とスピリチュアルケア②
第9回　いのちの倫理の諸課題①
第10回　いのちの倫理の諸課題②
第11回　実践研究①
第12回　実践研究②
第13回　実践研究③
第14回　まとめ
第15回　－

［成績評価］
試験(0%)、レポート(100%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
課題となる聖書や文献について事前に学び、一人ひとりが関係する対人援助の現場での実践と経験に基づいてテーマについての予習・復習を行い、授業参加に備える。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

［試験・レポート等のフィードバック］
各授業においてのフィードバックを行う。

［ディプロマポリシーとの関連性］
この科目を履修することにより高度な知識や技術を備えた専門家として業務を担うべく、ディプロマポリシーに定める「倫理や法令の理解と遵守」「クライエントへの臨床的支援能力」「他職種の専門家と連携する能力」を修得することを目標とする。

［テキスト］
藤井美和他編著『生命倫理における宗教とスピリチュアリティー』晃洋書房、ISBN：9784771021242

［参考文献］
その都度、授業内で紹介するが、たとえば阿部志郎『福祉の哲学』（誠信書房）、糸賀一雄『福祉の思想』（NHK 出版）、熊澤義宣『キリスト教死生学論集』（教文館）など。